

# ☆「浜松市憲法を守る会」行進七百回達成！

「浜松市憲法を守る会」の平和行進が戦後80年の今年、遂に今日七百回目を迎えるました。60年間、延べ700キロメートルの距離を歩き続けました。

## ・それは61年前、一人の反戦デモから始まつた

- ◆第1回の東京オリンピックが開かれた年の1964年11月5日、浜松市にて自衛隊発足14周年を記念する市をあげての盛大な記念行事が行われました。
- ◆空にはジェット戦闘機45機が舞い、陸上は自衛隊の戦闘車両等100台が公道を使つた大パレードでした。集まつた市民は3千人を超ました。
- ◆その時、その行進の最後尾を「戦争準備絶対反対」と書いたプラカードを掲げてたつた一人でデモを行つた人がいました。遠州教会の松本美実牧師です。彼は不届き者として何度摘まみ出されてもそのデモを最後まで続けました。
- ◆その出来事は、翌日の中日新聞に写真入りで報道されています。不思議なことにそれは誰の記憶にも残らず44年後、当会によつて記事が発見されました。

## ・その時、その後の展開

- ◆その時、これもたつた一人松本氏に応援の声を送つて沿道を歩いた人がいました。浜松盲学校教諭溝口正氏です。その後、二人は生涯平和の戦士として行動を共にし、浜松市憲法を守る会の発足と発展に尽力しました。
- ◆その後、平和憲法を守る行進は断続的に続けられましたが、1968年建国記念の日制定反対のデモを機に、毎月一回平和行進を続けることが決まり、今日まで一回も休む事なく継続され、今日700回の記念の時を迎えたのです。
- ◆しかし一方、この憲法を骨抜きにし、戦争準備に余念がなかつたのもこの国現実の姿です。それに抗つてきたのがこの平和行進でした。
- ◆少子高齢化の波の中でこの憲法の真価を守り平和を守り続けるにはどのような形でこの運動を継続するか、これからも私たちは模索し訴えて行きます。

## ・戦争準備へ傾斜する国の姿と憲法の真価

二〇二五年六月八日（日）護憲平和行進（通算700回目）  
★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中央区紺屋町三〇一ー一五  
月例護憲平和行進 每月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

\* 今日6月8日、浜松市憲法を守る会の平和行進は700回目を迎えました。  
午後3時より駅前バスセンター下の円形広場で記念のイベントを行います。  
参加して平和の思いを共有しませんか。歓迎します！



1964(\$39)11.6

中日通商貿易

## 空陸の大パレード

浜松自衛隊十四周年を記念

「お前はおまかに日本がおもむかに日本  
國、洋のベニート名古屋市警察的  
三十か月の監禁下やうだ、『西上古  
御殿御殿清正』といつて第一幕は清  
正だ、『西田亮の御殿』を演じたが  
脚本家が書いたために西田亮は書  
水野、ムラマツを駆使して脚本を組  
北条氏のとゆきへ、マト御殿様な  
と四十五歳の末に腰斧を失ふ。

心田監督は「モチベーション、モチベーション、モチベーション、火薬などが」「燃、燃、燃、燃、燃」と五音節おじびつて歌った。歌はいつのまにかトランクルームまで響いていた。

じるのへ繋がる通路レインジャーパーク一帯が市役所三間にロードを張り、改めて政地開拓をさせた。市役所周辺は市職員や近くの学生たち約三千人が集まつた。

沿道は直轄隊の「威力」を見よ  
る立派なたぐい櫻木ランナーの  
と西日本の中山のへだなりだつた  
が、陸軍の行進の様を「陸軍軍情  
調査隊」と號したナウカーリを  
手に「手を付けるひとりの敵  
國さんが現われ、即ち人ものと  
り合わせを構築な感情を廃棄つて



行道下一名觀軍事也

